

R4「市長と語るんまいけ」での提言等と回答要旨について

東加積地区

提言等の項目	R4に開催の「市長と語るんまいけ」		進捗状況(R5.3.31現在)
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨	
①農業活性化対策	現状は、コメ余りの対策として減反の継続、農業経営者対策として大規模化などが実施されているが、根本的な活性化対策は、コメ需要開拓である。営業活動に力を入れ、中国市場に目を向けるべきである。例えば、年間10万トンと10年間継続契約として獲得できれば、コメ生産者に今よりも生産意欲が生まれるのではないかと。	いただいた意見を参考にしながら、調査・研究していきます。	「ワンチームとやま」輸出促進ワーキンググループ(WG)会議に参加しながら、調査・研究を進めているところです。JAとも情報共有を図りました。
②農地転用	農地を転用したくても規制があり簡単に転用することができない。例えば、「2026年、水野たつおが目指す滑川MAP」にサテライトオフィスの誘致とあるが、東加積地区は誘致する場所として目玉になるような場所でもある。長い目で見ないといけないが、農地転用の規制緩和を進めてほしい。	空き家をリノベーションしサテライトオフィスの誘致に活用できるようにしたいと考えています。都会には、田舎でテレワークをしながら暮らしたいと考えている若者がいると聞いています。そのような方をターゲットにし、サテライトオフィスの誘致を通して、移住にも繋げていきたいと考えています。	—
③小児科医	市内の小児科医が少ないのではないかと。厚生連滑川病院の小児科の診療時間が増えたと聞いているが、まだ足りていない。また、市内で出産できる場所がないことも問題であると思う。これからどのように考えているのか。	市長に就任してから様々なところに出向いた成果もあり、令和4年8月から厚生連滑川病院の小児科診療時間を水曜日の午前中にも開設してもらえることになりました。水曜日に診療している県医師会の会長である先生からは、県内の医師不足の状況について聞いています。開業医の誘致も含め、今後も医療関係者と協議を続けていきます。	令和5年4月から厚生連滑川病院の小児科診療日数が週4日に増えました。令和5年6月からは週5日となる予定です。
④道の駅	現状の道の駅は、県外から来訪された観光客から、どこにあるのか、こんな小さな規模の道の駅ですか、夕方4時過ぎに店じまいですか、などと滑川市民として恥ずかしい状況である。これを大幅に改善して、「賑わい広場」としてはどうか。売り場面積の拡張、販売製品の増加、レストラン光彩のメニューにB級グルメの追加、月1～2回程度の朝一を実施してはどうか。さらに、ほたるいか海上観光と連携した取り組みを行い、「ホタルイカ」の街にふさわしい道の駅にしてほしい。	「道の駅ウェーブパークなめりかわ」が完成したのは平成10年4月です。道の駅は、ほたるいかミュージアムやタラソピア利用者の駐車場の確保のため、道の駅の整備に活用ができる県補助事業を活用しました。道の駅として、さらに営業活動を実施する必要があると考えています。滑川漁港周辺全体の土地利用のあり方や漁業者の所得向上を目的とした「浜の活力再生プラン」の事業の実施等を通して、活性化に繋がっていきます。また、県内では海洋深層水を取水できる施設は滑川市を含め2箇所しかないため、海洋深層水事業に関しても力を入れて取り組んでいきたいと考えています。	—

R4「市長と語るんまいけ」での提言等と回答要旨について

東加積地区

提言等の項目	R4に開催の「市長と語るんまいけ」		
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨	進捗状況(R5.3.31現在)
⑤タラソピア	タラソピアは、閉鎖を視野に入れた議論が進んでいる。営業を継続させるために夜10時まで延長営業してはどうか。さらに、旅行代理店等の観光事業者と連携して利用促進を図り、ほたるいか海上観光と併せて全国に積極的なPRをするべきである。また、日常の営業運営を民間業者に委託する方法で経営改善を図ってはどうか。	タラソピアを廃止するとは申し上げていません。今後も意見を聞きながら検討し今年度内に方向性を示します。設備の更新や管理を含め、公民連携で民間業者への委託も検討しながら協議していきます。	タラソピアにつきましては、これまでアンケートやサウンディング調査などによりいただいたご意見等を元に検討した結果、令和6年3月31日をもって廃止することとしました。今後の施設については、解体・改修の可能性や、海洋深層水の活用も含め、令和5年度以降検討します。
⑥消防団	消防団員数が不足している中、東加積地区での消防車両の配置と消防団員の定員の見直しは考えているのか。	滑川市全体の消防団員数は、令和4年9月1日現在で定員330人に対し276人であり、欠員が54人となっています。東加積地区だけでなく、その他の地区でも消防団員が不足している状況です。消防団の団長、副団長及び分団長の定年を65歳から68歳に引き上げ、今年度から消防団活動の実態に応じて適切な報酬を支給するため、出勤回数によらず年額支給する「年額報酬」と出勤に応じて支給する「出勤報酬」の2種類としたところです。また、東加積分団所属の小型ポンプ積載車の配備について、機動力が向上したことを踏まえ、4カ所から2カ所程度への統合を検討しているところです。	消防団員の定数については、報酬を個人支給したことにより、消防団員の確保に繋がると期待していることから、しばらくは現状のままと考えています。東加積分団所属の小型ポンプ積載車の配備については、車両の更新時期に併せて検討します。
⑦養豚場	令和2年・3年の「市長と語る会」でも要望し、市長や担当課とも直接話をしているが、養豚場の臭いの対策について、改善に向けての働きかけ等を引き続きお願いしたい。	令和4年春に上大浦町内会との懇談会に参加し、養豚場の臭いに係る要望を聞きました。その後、令和4年7月に担当課と上大浦町内会が意見交換をしています。意見交換から約1週間後に県環境保全課とも協議をしました。県では、法律に基づいた定期的な検査を年1回実施しており、排水等については基準値内に収まっていると聞いています。また、魚津市生活環境課とも協議するなど、継続的に働きかけを行っています。今後も何かあれば担当課に連絡をして下さい。	随時、魚津市の担当課と協議しています。引き続き、県及び関係自治体と連携して改善に向けての働きかけ等に努めていきます。
⑧高齢者の楽しみ	コロナ禍の中、高齢者の楽しみがなくなっている。東加積地区公民館まつりや東加積小学校の運動会と合同で実施する予定であった住民運動会も中止になった。もっと活力のあるようなことを進めてほしい。	高齢者の健康寿命延伸のために包括支援センター等が様々な取り組みを実施しています。新型コロナウイルス感染症の影響により地域のイベントがなくなり、地域のコミュニティが希薄化しています。アフターコロナの時代を見据え、高齢者の生きがいづくりのために様々な施策を実行していきたいと考えています。	老人クラブや通いの場(サロン)の活動助成やニュースポーツの振興など、高齢者の生きがいづくりのために様々な事業を行っているところです。人と人とのつながりを重視し、今後も取り組んでいきます。

R4「市長と語るんまいけ」での提言等と回答要旨について

東加積地区

提言等の項目	R4に開催の「市長と語るんまいけ」		
	皆様からいただいた主な提言等	その際の回答要旨	進捗状況(R5.3.31現在)
⑨小規模特認校	小規模特認校として東加積小学校の特色ある学校づくりを進めてPRに取り組み、児童数が増えるようにしてほしい。	東加積小学校は令和3年度から小規模特認校となり、令和4年度は13名が校区外から通学しています。PRについては、HPやSNSを中心に実施しており、より魅力的なものに更新予定です。東加積小学校は姉妹都市であるシャンバーグ市の小学生との交流を実施していることなども踏まえ、PRについて考えていきます。	令和5年度募集に際し、少人数での教育に加えて、英語教育・ICT教育・環境学習といった東加積小学校の特色がわかりやすいリーフレットやHPに更新したところであり、今後も魅力のPRに努めていきます。
⑩放課後児童クラブの支援員	放課後児童クラブの支援員が高齢化しているため、担い手の育成を積極的に行なうべきではないか。	放課後児童クラブの支援員が高齢化していることは、市内全体で問題となっています。女性だけでなく男性支援員の育成や、将棋や囲碁を高齢者が小学生に指導するなどしている「放課後子ども教室」との一体型での実施を検討していきます。	男性支援員の育成も含め、今後とも担い手確保の方策について検討していきます。
⑪小規模特認校	小規模特認校である東加積小学校に通う児童の親に対し、学校についてのモニタリングを行い、存続に向けた評価を実施してほしい。また、小規模特認校として東加積小学校の特色づくりの方向性を決めてほしい。	各学校で決められた教育課程の範囲内で特色を出していく必要があります。東加積小学校区から通っている児童と校区外から通っている児童の双方にとってよりよい学びの場となるよう努めています。少ない人数で勉強ができる環境をアピールしていきたいと考えています。	令和5年度募集に際し、少人数での教育に加えて、英語教育・ICT教育・環境学習といった東加積小学校の特色がわかりやすいリーフレットやHPに更新したところであり、今後も魅力のPRに努めていきます。